



小学校  
活用事例

DISC1

映像編 第2章② (導入映像)  
「持ち物」

## 「これは何でしょうか」

学習内容

学習で使う物の名前 記名の仕方

学習の目標

- ・学用品の名前を覚えたり、忘れた時の伝え方を話したりできる。
- ・「ある」、「ない」の言葉を用いて、品物の有無を答えることができる。

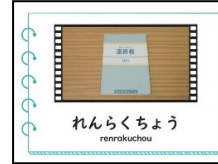
### 活用する「東京の学校生活」の主な教材



DISC1 映像編  
第2章②  
導入映像








DISC2 資料編  
たのしい がっこう  
(中国語)



DISC2 資料編  
多言語カード PDF  
「持ち物カード」

### 学習の流れ (例)

	主な学習内容・活動	指導内容	教材
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京の学校生活」映像編や資料編から、学用品の名前を知ったり、忘れた時の伝え方を話したりする。</li> <li>「持っています。」</li> <li>「持っていません。」</li> <li>「はい、持ってきました。」</li> <li>「いいえ、忘れました。」</li> <li>・伝え方について動作化しながら練習をする。</li> </ul>	<p>必要に応じて実物を使い、具体物と言葉を丁寧に結び付けながら練習をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳に明日の予定や持ち物、今日の宿題を書く理由について考えさせる。</li> </ul> <p>宿題は、学級のルールに従って、提出日までには必ず出すように伝える。</p>	 <p>資料編 たのしい がっこう P22 下、23 下</p>  <p>資料編 多言語カード PDF 「持ち物カード」</p>  <p>映像編 第2章② 1分11秒～2分4秒 3分4秒～3分24秒</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京の学校生活」映像編から、記名をする大切さを考える。</li> <li>・誰の所有物かを確認する伝え方について動作化をしながら練習する。</li> <li>「これは、だれのものですか。」</li> <li>「わたしのものです。」</li> <li>「わたしのものではありません。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記名は、友達と自分の持ち物を区別するだけでなく、名前が書いてあると、落とし物が持ち主に戻ってくる場合があることを伝える。</li> </ul> <p>学校により、学用品の呼び方が「赤白ぼうし」、「紅白帽」など、違いがあることを伝え最終的に、自校での呼び方を確認する。</p>	 <p>映像編 第2章② 4分5秒～4分45秒</p>  <p>資料編 多言語カード PDF 「持ち物カード」</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ある。」「ない。」の伝え方の練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で学んだ言葉を、実物を用いて「〇〇がある。」「〇〇がない。」と表現させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち物カード</li> <li>・例示する具体物</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードを使って、発音の練習をしたり、語彙を増やしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で学習した学用品に関する言葉を、カードを使いゲーム形式で身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち物カード</li> </ul>

## 活用の効果・ポイント 1

### (1) 児童の様子

初級の児童であり、まだ日本語が十分に分からず、実際に忘れ物をして困った経験があった。そこで、映像編（※1）の場面を視聴させ、忘れ物をした時は、どのように教師に伝えればよいのか、具体的な方法や伝え方が分かると、とても安心した様子であった。

### (2) 本資料を活用した効果の実感・感想

映像編（※1）は、児童にとって、自分の経験と映像を重ねて考えやすい場面である。映像編では多くの学用品が紹介されており、「のりを忘れたこと」を伝える場面に限らず、様々な状況を想定して指導することができた。また、「〇〇を忘れました。」という表現の代入練習では、映像や「たのしいがっこう」P23（※2）を用いて児童が実物を使いながら行くと、表現が定着しやすく効果的である。

### (3) 映像編・資料編の活用ポイント

DISC2資料編の多言語カードPDF「持ち物カード」（※3）を使い、代入練習を繰り返し行うことで、日常生活でも児童が意欲的に活用できるようになる。また、多言語カードPDFをラミネート加工すると操作性が増し、映像編の場面ごとに提示したり、長期間使用したりすることができる。

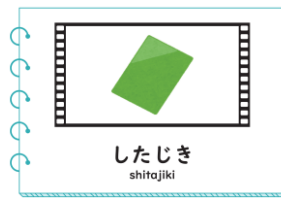
※1 第2章② 3分21秒



※2 たのしい がっこう  
中国語編 P23



※3 多言語カード PDF「持ち物カード」



## 活用の効果・ポイント 2

### (1) 児童の様子

児童の出身国では持ち物に記名をする習慣がなかった様子であり、初めは戸惑っていた。しかし、映像編や「たのしい がっこう」を見せながら理由を伝えると記名の大切さを理解した。上履きに記名があったものの、消しゴム等には無かったが、授業終了後、持ち物に名前を書くようになった。

### (2) 本資料を活用した効果の実感・感想

体育着・校帽等、日本の学校独自の学用品があることを教え、映像でランドセルがロッカーに入っている場面を活用し、整理整頓の大切さを児童に気付かせることができたのは、映像教材の効果であると感じた。持ち主を尋ねる対話「だれの物ですか。」「ちがいます。」等の練習では、「活用の効果・ポイント1」で学習した内容から、質問、応答のそれぞれの立場で適切な表現を用いることができた。

### (3) 映像編・資料編の活用ポイント

映像編（※4）のように、実際に記名があるものと無いものを使いながら指導を行う際には、「たのしい がっこう」P25（※5）と関連させて児童に示すと効果的である。また、物によって名前の大きさや書く場所が異なることにも触れるとよい。さらに、学校により「体育館履き」を「上履き」等と呼ぶことがあるため、自分の学校の持ち物の呼称を児童に確認していくことも大切である。

※4 第2章② 4分22秒



※5 たのしい がっこう 中国語編 P25



シニアオッシュエ 小学 shougakkou しょうがっこう		
ニイデン 年 nen	ハン 班 kumi	ハイ 号 ban
ねん	くみ	ばん
シンミン 姓名 namae なまえ		